

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

建築で つながりを創造する

リケジョが描く空間デザイン



●環境都市工学部 3年次生
松岡 桜子 さん

環境都市工学部建築学科の松岡さんは、学内・学外を問わず積極的に「創造の場」に顔を出している。学業はもちろん、コンペティションへの参加、課外活動にも全力で挑む松岡さん。「建築家の卵」が、社会を変えられるような場を創る夢に向かって走り出している。

無機質なコンクリートと木のぬくもりが醸すオシャレな1号館2階で、撮影に応じる松岡さん。凛としたたずまいで表情を決める様はまるで女優のよう。「幼少期にクラシック・バレエを習っていました。祖母が宝塚歌劇団が好きだった影響だと思いますが……。

ストリートダンスも好きで中学、高校はダンス部でした」と優しく笑う。関西大学に入学してからは写真撮影にもはまり、愛機のCanon EOS 80Dとともに「気になる場所」を訪ねてはシャッターを切る。「建築学科には写真が趣味の人も多いので、一緒に出掛けたり一人で出掛けたりすることもありますよ」。

色あせない「リケジョ一人旅」も多い。雑誌に掲載された建築家・平田晃久氏の「太田市美術館・図書館(群馬県)」を見て「凄い! こんな建築をする人がいるんだ」と衝撃を受けると、早速2年次の春に1泊2日で群馬行きを敢行。5個の鉄骨コンクリート構造の箱と、そのまわりに絡み付くように回る鉄骨構造のスロープに屋上庭園。人工と自然が混ざり合う丘のように、すべてが「つながっている」建築に、松岡さんは

松岡 桜子—まつおか さくらこ
■1998年、愛知県名古屋生まれ。金蘭千里高等学校卒。趣味は写真撮影、特技はクラシック・バレエ、ストリートダンス。好きな食べ物はお肉。

LEADERS NOW!



遊びの延長が 笑いにつながる

今できることを地道に継続



●よしもとクリエイティブ・エージェンシー 芸人
ジャルジャル
後藤 淳平 さん—経済学部 2006年卒業—
福德 秀介 さん—文学部 2006年卒業—

年末恒例のビッグイベントとなった「M-1グランプリ2018」で、決勝まで勝ち進み3位の結果を残したジャルジャル。関大一高ラグビー部で運命的な出会いを果たした後藤さんと福德さんは今、お笑い界で独自のポジションを確立している。

「イン」「ドネシア」「アル」「ゼンチン」。昨年12月に開催された漫才コンテスト「M-1グランプリ2018」でのネタ「国名分けっこ」では、ゲームを楽しむかのように漫才を披露する姿が印象的だったジャルジャル。この計算し尽くされたネタが、実はアドリブだったことを放送後に明かし話題となった。後藤さんは「ある程度の流れだけを決めておいて、繰り返しの回数や細かい部分は決めていない」、福德さんは「さすがに覚えられない。むしろ覚える方が凄いの、アドリブだったことをビックリされる方が逆に嫌や」と話した。



関西大学に通いながら吉本興業NSCにも通った2人は、2013年の「第34回ABCお笑いグランプリ」に優勝するなど数多くの賞を受賞している。お笑い界など各方面から高い評価を受けるジャルジャルの2人は、関大一高でまるでコントのように出会った。2人はラグビー部に所属し、入部当初はそれほど仲が良いわけではなかったが、福德さんが試合中に鎖骨を骨折したことがきっかけで、急速に距離が縮まったと言う。「顧問の先生から後藤が病院への付き添い役に指名されて、病院でも2時間ぐらいいっしょに待っていてくれた。そこからグッと仲良くなりましたね」と福德さんは当時のことを振り返った。

常に一緒に過ごしていた高校2年生の冬に「日常の遊びがふと、これはお笑いみたいだな。これを仕事にできたらいいな(後藤さん)」、「背広を着て仕事をする姿が想像できなかった(福德さん)」と感じた2人は、お笑いの道へと歩を進めた。大学進学後は時間を見つけては空き教室でネタ合わせを重ねた。大学の総合図書館の前を「舞台」に、昼休み中の学生にネタを披露し、その反応を肌で感じた。365日、元旦でも集まり、2人でお笑いを追求した。

結成15周年を迎えたジャルジャル待望の新作DVD「JARU JARU TOWER 2018 ジャルジャルのたじゅら」全国発売中!



後藤 淳平—ごとう じゅんぺい (写真左) : 大学在学中の02年吉本興業NSCに25期生として入学。株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属。独特の掛け合い漫才で、13年「第34回ABCお笑いグランプリ」優勝など数多くの賞を受賞している。
福德 秀介—ふくとく しゅうすけ (写真右) : 1984年、大阪府生まれ。2002年関西大学第一高等学校卒。06年関西大学経済学部卒。
福德 秀介—ふくとく しゅうすけ (写真右) : 1983年、兵庫県生まれ。2002年関西大学第一高等学校卒。06年関西大学文学部卒。

「あの頃はネタを作って関大のいろんな場所で漫才の練習をしていた。関大にはどの場所にも思い出がある。僕らは本当にお笑いの事しか考えていませんでしたから(後藤さん)」「関大で共に過ごしたから今がある(福德さん)」とほほ笑んだ。

現在、ジャルジャルはこれまで2人で作ってきたコントネタを「ネタのタネ」として、公式ウェブサイトとYouTubeで毎日1本ずつ配信している。この取り組みは、2018年2月15日にスタートし、目標の8,000本に到達するのは2039年11月8日(火)の予定だ。「ネタを作るのは得意です。ネタは子どものようなもの。僕らはそれぞれが父・母となりネタを生み出している。

これまでずっと2人でネタを考えてきた。今後もそれを続けていく(福德さん)」「僕らはできることを地道に継続していく。もっと単独ライブのお客さんが増えてほしいし、もっとネタをやっていききたい(後藤さん)」と、お笑いへの思いを語る2人の目は、絶えず進化を求め、まだまだ先を見つめている。



「外から眺めた第一印象は小さいなでしたが、中に入るとどこまでも道が続いているようで、時間の流れを感じさせない空間でした」と語気を強めた。

意匠・構造・環境の3分野を学べる関西大学環境都市工学部建築学科で勉学に励む松岡さん。「凧風館と第4学舎をつなぐ橋を架ける」課題では「構造体を構造体に見せないようにつなぐモノ自体にも連続性を持たせられるように、意匠として空間デザインとなる歩行空間を意識しました」と言う。

課外活動にも力を入れている。それが関大生中心に構成されるATACOM(アタコム)だ。300年超の伝統を誇る「愛宕祭」を通して、地域に新しい風と元気を送り込むというプロジェクトで、毎年テーマを決めて祭りを盛り上げている。夏の恒例行事である重要な神事「造り物」の文化的背景の理解からはじまり、企画、コンセプト決定、そして制作までを行った。「2018年は『化ける、かける、ツクリモノ』をテーマに、折り鶴で神龍(シェンロン)を作成しました。材料は同じ種類で作る、細工・着色はしない等の伝統ルールがあります。ダイケアセンターの方にもたくさん折っていただきました。8月17~25日まで過ごした兵庫県丹波市氷上町での合宿では武庫川女子大学、摂南大学のメンバーを含む計32人が「掃除係」「Facebook係」「ご飯係」「洗濯係」などを分担。松岡さんは地元小中学生たちと「小っちゃい作り物」にも挑んだ。約25,000羽に及ぶ壮大な神龍の完成に「建築とは少し違いますが、モノを作る、街の人々が楽しめる空間を創るという意味では同じです。小さな子供やお年寄りとの触れ合いは貴重な経験で、『また来年もおいでよ!』と言われた時はうれしかったですね」と振り返った。



3年次生目前の春休みには、イタリアや韓国を旅行し見聞を広めた。「イタリアのフィレンツェは特に印象的でした。大聖堂、ジョットの鐘楼、そしてミケランジェロ広場からの眺め。瓦の赤茶色に夕日も染まって、街全体が美術館のように、そして統一感もありました。意匠に強い建築士になれるように、3年次も課題に取り組みます。将来はさまざまなタイプの人が共存するような公共空間を手掛けてみたいですね。学業、写真、旅行、コンペティションに課外活動。そのすべてが「絡まり合う」ように、リケジョが成長曲線を描いている。